

令和7年度第4回あおもり未来ミーティング（中部第2区連合町会）会議概要

日 時：令和7年8月21日（木）18：00～19：30

場 所：青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）

テーマ：防犯カメラの設置について ほか

参加者数：28名

市側出席者：市長、副市長、総務部危機管理監、企画部長、市民部長、都市整備部長

■前回いただいたご意見に関する現在の状況の報告

⇒配付資料のとおり

■主なご意見等

○テーマに関するご意見等

- ・市の防犯カメラ設置状況及び今後の設置整備計画を教えてください。青森市は弘前、八戸に比べ設置が遅れていると聞く。事件・事故の解析には防犯カメラが役立つほか、設置されているということだけでも事件の抑止に繋がるため、本町繁華街、主要道路等に計画的な設置を要望する。

⇒市では、令和6年度から防犯カメラの増設を図っており、小・中学校周辺や子どもがよく通る通学路や公園等の公共空間への設置を進めている。具体的な設置場所については、声かけやつきまとい事案及び犯罪の発生状況を踏まえて地区防犯協会や警察と協議した上で決定している。令和6年度は市内全域で17箇所に68台の設置をし、今年度も約60台の設置を予定している。このほか、令和2年度から地区防犯協会が独自に「安全安心まちづくり防犯カメラ設置促進事業」を実施しており、令和7年7月15日時点で繁華街や住宅街に26台を設置している。

- ・大町町会において、津波で避難した場合に危惧されることとして、災害発生が深夜などの場合避難先にすぐに入ることができるのか、一つの避難先に避難者が集中して他の避難先を探さなければならないという事態もあり得るのではないかとということが挙げられた。市内には先進的な取組を行っている複数の地区があるが、このことは他地域でも想定されることであり、「500mの共助の輪」として、地区単位の連合町会で連携を進め、地区毎の避難先を事前に設定・周知し、その中で日常的なコミュニケーションを持つことが迅速な避難のためには重要と考えているが、市の考えを教えてください。

⇒市では、自主防災組織等に対して大町町会の取組の重要性や先進的な活動を行っている町会があることについて広く周知し、他の地区における防災活動の参考としてもらえるよう努める。

防災対策に係る考え方として、自分の命は自分で守る「自助」、地域住民同士が協力して助け合う「共助」、行政や消防、警察といった公的支援による「公助」の概念があり、災害時には地区ごとの災害リスクや避難行動要支援者の情報に基づいた迅速かつ的確な対応が求められ、これを実現するためにコミュニティによる共助が重要である。大町町会が日頃から高い共助意識を持ち、地区の防災力を高めるために取り組まれている活動は意義深く、地区の模範とも言える。今後も共助の力をさらに発展させ、住民が主体となった防災活動を継続されることを心より期待している。

○テーマ以外のご意見等

- ・青森県立郷土館の移転について、他市も誘致に手を上げているという話が出ているが、重要な施設であるため青森市に残してほしい。

⇒県内どこからもアクセスしやすいのは中央に位置する青森市であり、クルーズ船や新幹線、飛行機の玄関口でもあることから、国内外からの観光客が最も訪れやすいのも青森市である。本市が一番ふさわしい、ということを県にも伝えているところであり、今後も積極的に主張してまいりたい。